

# JICA 中国事務所ニュース 11月号

## 目次

### 【最近のトピックス】

- ◎ 麻生首相が協力隊員を激励 ..... 1
- ◎ 中国リハビリテーション研究センター設立 20周年記念式典を開催 ..... 2
- ◎ 新生JICAの挑戦 ～ 次世代を担う子供たちと共に ～ ..... 2
- ◎ 中国保健医療分野の協力について ..... 3

### 【ニュース】

- 「地震大国」日本の経験を中国に ..... 4
- 2008年度青年研修事業が実施 ..... 5
- 日本人学校での協力隊の講演会 ..... 5
- 上田理事が円借款プロジェクトを視察 ..... 6

### 【人の動き・主要行事】 ..... 6

### 【寄稿コーナー】 ..... 7

### 【帰・赴任者紹介コーナー】 ..... 8

### 【中国の動き】 ..... 9

## 最近のトピックス

### ◎ 麻生首相が協力隊員を激励



麻生首相とスリーショット

10月25日(土)北京の日本大使公邸にて、麻生首相と在留邦人との懇親会が開催され、青年海外協力隊からは松井真也さん(四川省徳陽市:理学療法士)と田中千代子さん(北京市:ソーシャルワーカー)が出席しました。

当日幸運にも二人は首相ご夫妻と懇談する機会に恵まれました。

山浦JICA中国事務所長の紹介により二人が「協力隊員です!」と名乗ると、首相は笑顔で力強く「自分は青年海外協力隊を大変重要に思っています。ぜひ今後がんばってください」と、また、令夫人は「協力隊の活動がんばってくださいね」とやさしく声をかけてくださいました。

麻生首相は1993年から4年間にわたり自民党「青年海外協力等人的国際貢献に関する小委員会」の委員長を務められるなど、協力隊と深い関わりがあります。

写真撮影の時には、首相自ら「協力隊一!」と言いながら拳を突き上げ一緒に協力隊をPRしてくださいました。

松井・田中の両隊員は、首相の「日中の更

なる関係強化には民間レベルでの相互交流が非常に大切である」との言葉が大変心に残ったそうです。

協力隊員は「三同主義(共に暮らし、共に働き、共に考える)」のスローガンのもと、ここ中国で地域の人とともに、その地域の発展のために尽くしています。活動を通して中国のみなさんに等身大の日本人を見てもらうこと、また日本人として等身大の中国人を見ること、このことがお互いをより良く知ることにつながり、未来にわたり良好な日中関係を築いていくのだと2人は確信したそうです。

協力隊の活動は晴れの日ばかりではありません。時には雨の日もあります。でも、雨が降ればお互いに傘を貸し合う、そんな隣人関係を確かなものにするのが青年海外協力隊。その活動やそこから生まれた「相互交流」は、隊員や地域の方だけではなく、日中両国にとってもかけがえのない財産であることは間違いありません。

(ボランティア調整員 鈴木大介)

### ◎ 中国リハビリテーション研究センター 設立 20 周年記念式典を開催



友誼賞を受賞した上田理事(右から2番)

10月28日(火)、北京の釣魚台国賓館で中国リハビリテーション研究センター(CRRC)の設立20周年記念式典が開催されました。

CRRCは、1988年に設立された中国初の近代的総合リハビリテーション拠点です。1980年代始め、中国ではリハビリテーションの認識はまだ低く立ち遅れている状況でした。そのような中、中国障害者連合会は日本な

ど諸外国の支援も受けながらCRRCを設立しました。JICAはその設立準備時期の1986年から現在まで、長年にわたり協力を実施しています。

式典には、全国政治協商会議副主席・中国障害者連合会主席である鄧樸方氏を始め、政府指導者、専門家、リハビリ関係者等、中国国内外から約400名が出席し、JICAからは上田善久理事が代表して出席しました。鄧氏からは、CRRCの創設期における特に日本、JICAの貢献に対する感謝の言葉が述べられ、心のこもった挨拶がありました。また、式典中、CRRCの発展への貢献が評価され、JICAに対し発展友誼協力賞が授与されました。

JICAはこれまでCRRCにおいて、本邦関係機関の支援を得ながら、開設初期の人材育成、大学専門課程の設置などの協力を行い、リハビリテーション技術の向上に貢献してきました。一方、中国の障害者数は8,300万人にも達しており、また、今年5月12日に発生した四川大地震の被害により、障害者支援の必要性はますます高まっています。

CRRCとJICAは今年4月から2013年まで5年間の予定で、「中国中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトはこれまでの協力成果を活かし、中西部3地域(陝西省、重慶市、広西チワン族自治区)のリハビリテーション人材の育成を進めていくものです。北京のCRRCを中心に、質の高いリハビリテーションの普及が期待されています。

(保健医療・社会保障班 坂元芳匡)

### ◎ 新生 JICA の挑戦 ～ 次世代を担う子供たちと共に ～

#### 10月16日 大連日本人学校で ODA 特別講義・プロジェクト視察実施

大連日本人学校の中学部では、約40名の日本人生徒が学んでいますが、JICAの提案により、本年10月に「現地理解学習～ODA～」という初めての取り組みが行われま

した。この理解学習では、約1週間に亘り、「ODA(政府開発援助)入門」、「国際協力」、「水の循環(環境保全)」などをテーマとした授業が行われると共に、JICA 中国事務所竹内所員による「中国向けODA」の概要説明や、長安企画調査員による「環境保全」をテーマとした特別講義、そして、国際協力や環境保全の現場を肌で感じることを目的に、円借款プロジェクトの視察が行われました。

視察先である大連沙河口浄水場(円借款、2003年完成)では、「大連日本人学校の生徒・教員の参観を歓迎します」との横断幕が掲げられると共に、工場長・副工場長の両名が一行にアテンドするなど、中国側関係者の暖かい配慮を感じました。



浄水場の大掃除も見学できました

JICAは今年10月に有償資金協力(円借款)、無償資金協力、技術協力という3つの援助スキームを兼ね備えた世界最大級の援助機関として生まれ変わりました。

今回の大連日本人学校の取組み実施に際しては、有償資金協力(円借款)プロジェクトのアセット、技術協力の持つ開発・環境教育のノウハウ、元青年海外協力隊員であった日本人学校教員の熱意、そして、今回の企画に感銘を受けた浄水場関係者の協力、それらが有機的に結びつき、一つとなったため実現することができました。

新生 JICA は、今後もこのような新しい取組みを行い、新しい価値を創造していくつもりです。(円借款班 竹内和夫)

参考: 大連上水道整備事業のコラム  
<http://news.searchina.ne.jp/topic/032.html>

## ◎ 中国保健医療分野の協力について



寧夏吳忠市同心県梁家村民の家(窑洞)を尋ね

対中協力方針は、数ある JICA の各国協力方針とずいぶん趣が異なるのではないのでしょうか。通常、当該国の政策や課題・ニーズに合わせて協力方針を考えるものですが、中国の場合は当該国のニーズのみならず日中の互惠につながる協力が強調されており、保健医療分野で言えば、国境を越える問題に協力して取り組むべしという問題意識から、「感染症対策」が重点分野になっています。

しかしながら、中国国内では、昨今経済発展に伴って感染症より慢性疾患が増えてくる所謂「先進国型疾病構造」に変化してきており、また改革開放以来民間資本を中心に医療資源の拡大に努めてきた一方、公的資金の投入が必ずしも十分でなかったため公衆衛生サービスや基礎医療サービスなど本来全ての国民が平等に受けられるべきサービスを万人が平等に享受できないなど、中国保健医療分野の抱える課題は複雑です。

中国政府も近年農村部の医療保険制度(新型農村合作医療)を改めて導入・強化したり、各地の疾病予防コントロールセンターや郷鎮衛生院、村衛生室の改築や経費投入を進めたり、基本的な公衆衛生・医療サービスを万人が平等に受けられるように公的保障を強めています。

そんな中で、中国の政策と日本の対中

ODA 方針をすり合わせながら、長中期的にどんな協力を描いていけば良いのか？ 今年度はそのようなテーマで JICA(東アジア課・人間開発部・中国事務所)によるプログラム・プロジェクト形成調査を行うことになっています。9～11 月行った調査において、中央の衛生部や人口計画生育委員会との協議、地方農村部(省から村レベルまで)の現地調査、既存案件のレビューなどを行いました。



村レベルの衛生室

その結果、「公衆衛生システム強化を目指した感染症対策」を目的として、国家レベルの人材育成と県以下末端の公衆衛生人材の

育成を行ってはどうかという意見が提言されました。サービスを受ける住民から見れば、感染症問題もその他の健康問題も区別なく合わせてサービスを受けたいものです。また、こうした総合的な公衆衛生サービスを提供することが、中国が目指す公衆衛生体制の強化にも繋がり、日本の対中協力方針である感染症対策にも繋がるものと言えます。それでは、このような総合的な公衆衛生サービスが十分提供できない課題はどこになるのか、その答えの一つは、国家レベルの政策策定能力の一層の向上、基層レベル(特に県・区、郷鎮・街道、村・社区など)の実施能力向上にあるのではないかと問題意識を調査団は持った訳です。更に今後は、日中関係者と相談しつつ、より具体的に案件を形成していく必要がありますので、これからが更に難しいところではあるのですが……。

(保健医療・社会保障班 桑内美智子)

## ニュース

### ■ 「地震大国」日本の経験を中国に ～こころのケア・プロジェクト形成調査～

11月9日から約1週間、四川大地震復興支援こころのケア支援プロジェクト形成調査が行われました。阪神大震災後の被災者の心のケアに従事された専門家を調査団に迎え、省都・成都、重大被災地である都江堰市と綿竹市の九龍鎮で視察・意見交換を行いました。

被災地では、破壊された建物が生々しく残り、多くの人々が仮設住宅やテントでの生活を送っていました。大切な人を失ってしまった心の傷や恐怖によるトラウマの他にも、復興の過程の生活における不安とストレスを抱えて



被災者からお花のプレゼントを頂きました

いる被災者も大勢いました。一方で、中国側が一通りのこころのケア活動を既に始めていることや質の面についてはアドバイスの余地がありそうですが、被災地の幼稚園、小学校

の子供たちの元気な笑顔を見せてくれたことがとても印象的でした。

「地震大国」日本からの支援に対する現地の人々の期待は大きく、今回のプロジェクトの意義を強く感じました。これからプロジェクト開始に向けて各関連機関との詰めに入っていきますが、被災者のニーズに応えられるよう、1日も早く、支援を実現させたいと思います。  
(新人 OJT 土居健市)

れている分野の研修を通じ、将来の国づくりを担う人材を育てることを目的とする事業になり、参加青年は 18 日間日本に滞在し、各専門分野の知識・技術を向上させる研修を受けることとなります。

今回の訪日研修を通じて、日本の技術や経験などを持ち帰り、各自の仕事に役立てていただくことが期待されます。

(相互理解班 王莉)

### ■ 2008 年度青年研修事業を実施



「友達」を合唱している青年達

2008 年度青年研修事業「日中青年の友情計画」(100 名)、「環境行政」(19 名)の訪日研修が予定どおり(10 月 21 日ー11 月 7 日)に実施された後、「実務者招へい計画」(60 名)の研修員も先日、日本へ旅立ちました(研修期間:11 月 11 日ー11 月 28 日)。

「日中青年の友情計画」は東京、大阪など、「環境行政」は広島、宇部市など、「実務者招へい計画」は東京、長野などの地域で、各専門分野の講義、視察を経て、日本の一般市民との交流も行います。

1986 年中曽根首相(当時)訪中の際、日中の青年交流を通じて相互理解を深め信頼と友情を築くことを目的に、1987 年から 5 年間、青年招へい事業として毎年 100 人、計 500 人の中国青年指導者を日本に招聘することが決定されました。以降、本事業の評価が高いことから現在に至るまで継続され、2007 年には 20 年目を迎えました(累計訪日青年数:4,446 名)。また 2007 年度から、本事業が改編され、事業名称も「青年招へい」から「青年研修」に変更しました。中国の若手行政官や技術者等を日本に招き、国で必要とさ

### ■ 日本人学校での協力隊の講演会



子供達は皆興味津々でした

11 月 8 日に北京日本人学校で、青年海外協力隊の隊員による講演会がありました。隊員の理学療法士の町田将一さんと幼稚園の保母さんの那須由美さんが、中学生の生徒さんに、2人がなぜ今の職業を選んだのか、協力隊に参加したのかを素直な言葉で話してくれました。

町田さん「中国人は模範通り行うのが本当に得意。でも、患者さんとの接し方が画一的でマニュアル主義なところもあります。リハビリには患者さん個人、個人に合わせた接し方が必要なんです。」

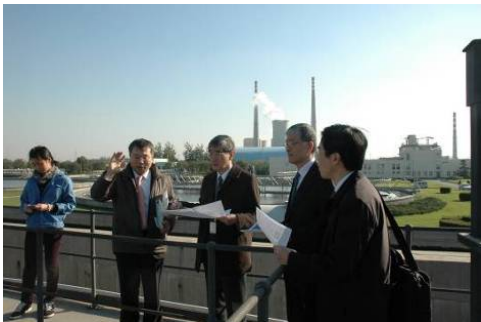
那須さん「来て初めの頃は子供たちの言葉がわからなくて戸惑ったし、幼稚園教育のやり方でも中国の作法がある、日本のやり方とは違うと突っぱねられることもあります」「でも、日本の子ども達も、中国の子ども達も笑顔は同じ」。生徒さんだけでなく、職員の私にとっても、2人の現場ならではの臨場感や暖かさの溢れる生の声を聴いて、とても実りある講演でした。

2人のユーモアを交えた話しぶりに笑いつ

つも、中学生の皆さんはとても真剣に聞き入っていました。講演後の質疑応答や感想の時間でも、「人と接するのに大切なことは何ですか」、「青年海外協力隊になりたいです」等の生徒さんからも積極的な発言が相次ぎました。この日の講演を聴いた生徒さんの中から未来の協力隊が出てくれれば望外の喜びです！今後とも色々な場所で市民の皆様にも JICA 事業を知ってもらうための取組を進めていきたいと思えます。

(新人 OJT 土居健市)

#### ■ 上田理事が円借款プロジェクトを視察



円借款のプロジェクトを視察する上田理事

10月下旬、東・中央アジア地域を担当している上田善久理事が、寧夏回族自治区で実施中である4つの円借款プロジェクト(植林植草事業、放送事業、人材育成事業及び都市水環境整備事業)を視察しました。上田理事にとっては、初めての円借款プロジェクトの現場視察であり、自治区財政庁の馬副庁長が全日程に同行され、道中プロジェクトの細かな説明や意見交換が行われました。

寧夏回族自治区では、2001年度に初めての円借款プロジェクト(植林事業)が採択された後、教育水準の向上を目的とした人材育

成事業、放送機器の整備を目的とした放送事業、環境改善・節水の強化を目的とした都市水環境整備事業などの円借款プロジェクトが相次いで実施されており、承諾額合計は232.87億円(約15.6億人民元)に上っています。

その中でも特に評価が高いのが、「植林事業」であり、2007年には温家宝首相自らが“寧夏モデル”と呼び、中国全土にこのプロジェクトの成果を広めるようにと指示を出しています。理事が視察に訪れた植林サイトの一つ「銀川市鎮北堡植林サイト」では、プロジェクト実施前には「不毛の大地」と呼ばれていましたが、今では緑で覆われ、生命の宿る大地へと変わりました。

理事の当日のプロジェクト視察の様子が、10月27日の寧夏テレビでも報道されるなど、今回の理事の視察は寧夏で大きく取上げられています。

『小金の秋の季節は収穫の季節。円借款プロジェクトも更に多くの収穫を得ることだろう。』とは上田理事の談です。上記4つのプロジェクトは現在実施中のプロジェクトですが、数年後には次々と完成していくこととなります。プロジェクトが完成し、寧夏に住む人々の役に立つ時・・・そのときは、日中両国にとってもっと『大きな収穫』の季節となることでしょう。(円借款班 張陽)

## 人の動き ・ 主要行事

### (1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(11月)

- ・ 感染症対策プロジェクト形成調査団(10/26～11/15)
- ・ 貴州省フッ素症対策機材整備計画 F/U

調査(10/27～11/15)

- ・ 貴州省道真県・雷山県住民参加型総合貧困対策モデルプロジェクト終了時評価(11/6～18)

- ・ ワクチン予防可能感染症 PJ 中間評価 (11/11~11/23)
- ・ 農村社会養老保険制度整備調査運営指導調査(11/11~11/14)
- ・ 新疆定住プロジェクト運営指導調査 (11/20-29)
- ・ 循環型経済推進プロジェクト第2次運営指導調査団(11/18-11/21)

## (2)長期専門家・ボランティアの動き(11月)

### <長期専門家>

- ア. 赴任  
なし
- イ. 帰国  
なし

### <ボランティア>(11月)

- ア. 赴任
  - ・ 田中 奈緒美 日本語教師  
寧夏大学外国語学院  
(2008/11/5~2009/6/20)
  - ・ 佐倉 未穂 看護師  
江西省吉安県計画生育サービスセンター  
(2008/11/5~2009/3/4)

- イ. 帰国  
なし

## (3)事務所員等の動き (11月)

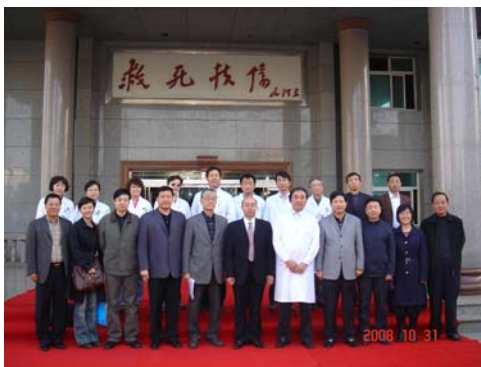
1. 日本人所員
  - ア. 赴任  
足立 佳菜子(2008.11.21)
  - イ. 帰国  
奥田 久勝(2008.11.28)
2. ナショナルスタッフ
  - ア. 採用  
なし
  - イ. 退職  
陳巍(2008.11.30)

## (4) 11月の主要行事

- ・ 青年研修訪日(11/10)
- ・ 平成20年度プロジェクトリーダー会議 (11/24)

## 寄稿 コーナー

### 医療同窓会無料問診活動



ハリソン国際平和病院無料問診活動開始式

JICA 中国事務所より山浦所長が参加しました(左から5番)

JICA 医療同窓会は2006年8月より設立して以来、同窓会の活動内容として、毎年一回の無料診療を行い、第一回目は北京市順義木林衛生院、第二回目は甘肅省第二人民病院と天水第二人民病院、今年は第三回目

河北省衡水市と深州市で行いました。同窓会事務局副局長として、三回の問診活動の計画・実施に参加できて、無料診療活動を通じて、深く感じることは以下の三点です。

#### 一、現地政府と現地病院の重視

我々の毎回の無料診療は現地政府と現地病院は非常に重視され、衛生庁または衛生局のリーダーはこの無料診療活動を現地庶民の為に幸福を造る一回の公益活動と見えています。特に今年の河北省衡水市と深州市での無料診療には、市のリーダーが開診式に参加され、衛生局の局長はずっと病院に居て、病院もよく手配してくれました。

#### 二、受益者は現地住民

河北省衡水市と深州市は革命老区で、経済は沿岸地域に比べると、相対的に遅れ、現地一般庶民は大都会の病院に行けず、行

っても高い医療費用を負担することは出来ません。わが同学会がこのような無料診療活動を行うと、一般庶民は大病院に行かなくても、有名な先生を診てもらえることが出来ますし、医療費用を負担できない人は、同学会よりある程度の医療補助を貰えますから、本当に受益するのが一般庶民なのです。

### 三、JICA 組織に対する理解

無料診療活動を通じて、JICA は日本政府のどんなの組織なのか、JICA という組織を紹介し、JICA の中国での知名度は高くなりました。

我々JICA 医療同窓会のメンバーはいずれもJICA 研修の経験者で、無料問診活動を通じて、辺鄙な地方の医師や医療従事者たち

と交流し、また地方貧困住民にサービスを提供できて、うれしく思いますが、今後も JICA の支援と支持の下で、さらに広い分野で同窓会事業を進めて行きたいと期待しております。(中日友好病院外事処/医療同窓会事務局 長 蔡福軍)

## 帰・赴任者紹介コーナー

### (1) 長期専門家 土谷武



環境省から派遣された土谷です。本年 10 月より始まった循環型経済推進プロジェクトの循環経済アドバイザーとして同月に赴任しました。

海外赴任ははじめてで、本プロジェクトの岡田美和さんに大変お世話になっています。最初の仕事は赴任の次の日に日中センターのバレーボール大会に日本人専門家チームの一員として参加しました。日中友好の楽しい時間を過ごすことが出来ました。

地下鉄は新しくきれいで、整列乗車などもしっかりしています。乗客は若い人が多いなあと思っていたら、2 度も中国の青年が席を譲ってくれました。

日本にいる家族にそのことを話すと、爆笑されましたが、感心していました。

日中の環境協力が益々進展する様努力していきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

### (2) 新人 OJT 土居健市



大家好！皆様、こんにちは。中国事務所に在外 OJT(On The Job Training)で赴任した土居健市です。

学生時代から中国を何度も訪れていたの親しみがありますが、旅行ではなく、仕事としての滞在なので、日々新たな発見に溢れています。



経済発展に伴い、Dynamic に変化する中国ですが、一方で、北京の街中でも路地裏を歩けば、すぐに貧しい人々の生活を見て取れます。いかに Inclusive な発展を実現するかが今後の中国の課題です。また、大国化する中国と日本の関係の中で、ODA はどのような位置づけにあるのか常に自問の毎日です。

現場体験にとっぴり浸かること、在外 JICA 事業を習得・実践していくこと、現地の人々と交流すること等、在外 OJT で課されるミッションをこなすことはもちろんですが、中国だからこそできることにしっかり取り組み、「中国の特色ある OJT」を実現したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。請多関照！

### (3) 新人 OJT 谷口剛



10月23日に着任しました谷口剛(ごう)と申します。来年の4月中旬まで中国事務所でお世話になります。どうぞ宜しくお願いします。

私は今年の4月に旧 JBIC に入行して以来、対中国オペレーションを行ってきました。こちらに赴任してまず驚いたのは、この国の躍動感です。事務所がある北京は経済社会インフラが整備され、企業活動も活発に行われています。人々の熱気(?)もすさまじいものがあり、2週間で食事を注文するときの自己アピールがかなりうまくなりました。(小さい声では店員はまず来ません…)

中国は経済成長と格差は正・環境配慮の両立を迫られています。課題が山積した国だと思いますが、開発モデルとしてこれほど短期間に経済成長や貧困削減に成功した国はありません。色々要因はあると思いますが、やはり民間の経済活動が非常に活発であることが目に留まります。例えばインフラ産業では、官がボトルネックとなるリスクを負い、採算が取れる部分には民間が参入することによって、課題であったインフラのファイナンス・ギャップを官民トータルでうまく埋めています。他の途上国が目指していることがこの国ではうまく進んでいます。これは私が学生時代から実現させたいと考えていた開発モデルに近似していますし、新 JICA としても3スキームを通じてコミットできることだと思います。

半年間という限られた期間ですが、ダイナミックな中国を肌で感じ、仕事と中華料理巡りに邁進していきたいと思っています！

## 中国の動き

### 「北京マラソン完走！！」

中国に派遣されて3ヶ月と少し。自分の考えていた世界とは違うものにとまどい、正直活動もうまくいってるとは言えない状況。こんな感じでいいのかな？

そんななか北京国際マラソンの存在を知りました。

僕は小さい頃から体を動かすことが好きで、走ることも嫌いじゃなかった。またフルマラソ

ンを走ってみたいという夢もあったので参加してみようと思いました。

活動とは関係ないけども自分の気持ちの切り替えになればいいと思いながら日々走って練習しました。「俺ね今度フルマラソンに参加するんよね。」そんなことを友達や親に話すと応援してくれた。

毎日自分の理想とはかけ離れた活動内容。思いをうまく伝えられない自分の語学力への苛立ち。そんなことを1日のうち少しでも忘れ

られ、いろんなことを考えられる時間、それが日々のマラソンの練習だった。おかげで毎日気持ちをリセットできて毎日を迎えられた。

マラソン本番前日。変わらず走りに行った。そのとき、マラソンが終われば自分の夢がかなうけどこれからの活動への気持ちはどうなるのかな？って不安になった。別に走る必要もなくなる。



僕は一生懸命に走りました

そんななか迎えたマラソン当日。本当にたくさんの人があふれかえってるスタート地点に。完走できるかわからない不安でいっぱいだった。いざスタートすると不安もなくなり淡々と前へ進む。途中苦しいときもあつたけど沿道ではたくさんの人が見に来て応援してくれた。各国からのたくさんの参加者もあって、いろんな人がいて楽しかった。走ってる時いろんなことを考えた。

僕が一生懸命走っていると応援してくれる。応援してくれると頑張れる。活動でもきつと同じだろう。

僕が一生懸命伝えようと思えばきっといつかわかってくれるんじゃないか？

応援してくれるんじゃないか？

もっと助けてくれるんじゃないか？

そう思うともういいやってあきらめていた自分がいたような気がした。

たった3ヶ月たらずで自分の思い通りいかなかっただけでわがままばかり言ったような気がした。自然とこれからどういうふうを考えてやっていこうかっていうのが見えてきた。

もっと積極的に取り組んでみてみよう。

それでもっといろいろな角度から物事を見てみよう。

いつのまにか切羽詰った状況を自分で作っていることに気づきました。今の活動だけじゃなく、これから先も気分転換は必要だなと思うことができました。ゆっくりといろんなことを考えられた貴重な 42.195 キロでした。

フルマラソンという過酷な挑戦を終えたにも関わらずこうして今も元気に毎日任地で活動できています。それも僕自身が健康であるからだと思います。

いつも心を支えてくれる周りの人たちに感謝してます。

また健康な体で生んで育ててくれた両親にも感謝してます。

謝謝。(青年海外協力隊 河北省保定市第四中学 野球教師 岩崎光亮)

=====

\* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) へてお願いいたします。

=====

\* その他お知らせ

JICA のホームページ: チャイナ ライブラリー (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チャイナ トピックス (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>